

カンボジア 工場労働者のための子宮頸がんを入口とした 女性のヘルスケア向上プロジェクト

Newsletter from SCGO-JSOG Project on Women's Health and Cervical Cancer

No. 19 May 2017

工場での健康教育：カンボジア人スタッフで構成される健康教育 チーム始動

平成 29 年 5 月 4 日から 29 日の間、国立国際医療研究センター国際医療協力局より石岡未和助産師がカンボジアに派遣されました。2015 年 11 月に続き 2 回目の派遣です。今回は、主に工場での健康教育の内容検討、これからの工場での健康教育活動の体制づくり、および 6 月に工場で予定されています子宮頸がん検診の準備を行いました。

国立国際医療研究センター国際医療協力局
石岡未和

2017 年 6 月から、工場における健康教育の運営を、カンボジア産婦人科学会（以下、SCGO）が中心となって推進していくことになりました。今回私は、日本側の担当者から SCGO への引継ぎ支援を行うことを目的に派遣となりました。活動としては、工場の健康教育活動視察、今後の健康教育体制づくり支援や健康教育活動実績づくり支援を行ないました。

これまで、プロジェクトでは子宮頸がん普及啓発を含む健康教育教材を作成し、3 工場の医務室や従業員教育体制に合わせた健康教育プログラムを計画し実施してきました。その結果、2016 年 8 月から 2017 年 5 月までに 3 工場で計 7 回の健康教育を開催し、のべ 1,875 人が参加しています。参加した女性工場労働者の属性は、平均年齢 23.9 歳、63.8%が未婚で、学歴は小学校卒業と中卒を合わせて 83.5%でした。昼休みなど限られた時間を活用し、識字率も高くないことから参加者の理解度を測る方法には限界がありましたが、質疑応答では、家族や自身の健康問題を医師や助産師に積極的に質問する姿が多く、産婦人科医師や助産師の役割が大きいことが明らかになりました。今後の課題としては、健康教育を通じて女性工場労働者や対象工場の管理者の意識がどのように変化したかを評価する準備不足、健康教育を担う産科医師と助産師不足が挙げられ、引続き取り組んでいくことになっています。

上記の実施過程を通じ、SCGO は医師・助産師の参加する健康教育の必要性を認識しており、私自身もその必要性を認識し、本プロジェクトの健康教育を含む効果を発信していく必要があると感じています。

このような貴重な機会を賜りました JICA、JSOG はじめ、SCGO の先生方・事務局の野中さんはじめ多くのスタッフの皆様へ深く感謝申し上げます。



工場での検診準備委員会



カンボジア人健康教育チームへの引継ぎ



健康教育チーム



感謝状授与式

子宮頸がん検診で使用する HPV 検査資機材一式の贈与式

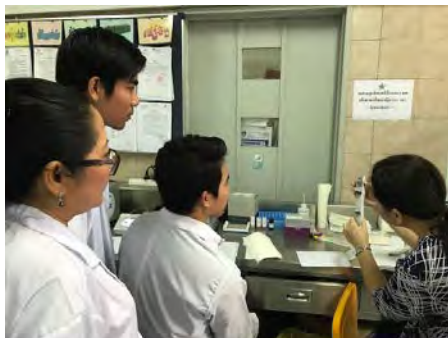
5月5日、国立母子保健センターにて、子宮頸がん検診で使用する HPV 検査資機材一式(供与機材)の贈与式が行われました。JICA カンボジア事務所の本プロジェクト担当の水沢文さん立ち合いのもと、日本産科婦人科学会(当プロジェクト担当藤田則子医師)からカンボジア産婦人科学会(カナル学会長)へ、そして、カンボジア産婦人科学会(カナル学会長)から国立母子保健センター(ラタビーセンター長へ)への贈与式が行われました。

6月から開始する予定の工場での子宮頸がん検診(HPV 検査)の検査室での検査は、国立母子保健センターで行われる予定です。

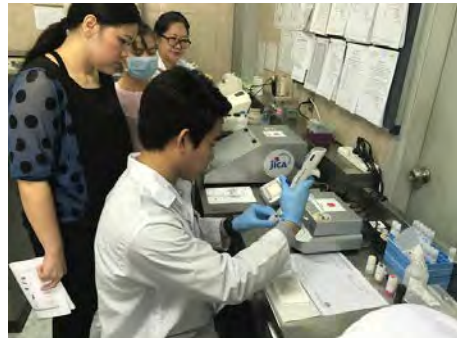


HPV 検査のための検査技師研修

5月22日から5月26日まで HPV 検査のための検査技師研修が行われました。キアゲン社シンガポール支店からタイ人の Ms. Atjaraporn Cotipuech が講師として派遣され、朝から夕方までつきっきりで指導していました。最後に講師によるテストがあり、HPV 検査を行う予定の 2 名の検査技師は修了証を無事受け取りました。6月の工場での子宮頸がん検診後が初仕事です。



講師による説明中



HPV 検査(ラボ)の研修中



研修を受けた検査技師と講師

子宮頸がん検診で用いるバーコード研修

5月23日、子宮頸がん検診で用いるバーコード研修のため、京葉コンピュータサービス株式会社より並木さんが講師としてカンボジアにられました。

研修では、工場での検診を想定し、受付から検診が終わるまで、そして検査技師が検診当日検体を受け取り、検査結果を出すまでの流れをシュミレーションしました。

参加者は、間違いがあってはいけないと真剣で、不安なところやわからないところは積極的に並木さんに質問していました。



子宮頸がん検診の準備着々と

1月の西野先生のカンボジア派遣から本格的に始動した工場での子宮頸がん検診の準備が着々と進んでいます。

検診準備委員会では、必要な物品をリストアップ、必要なスタッフのリストアップとTORの明確化、前日の準備から当日の動き、検診後の片づけやHPV検査(ラボ)等についてカンボジア人医師と日本人医師が同じイメージを持てるように話し合いを重ね、その話し合いをもとに、子宮頸がん検診のマニュアルを作成しています。このマニュアルに基づいて、検診受診者が受付に到着するところから、検診が終了するまでのシミュレーションも何度も繰り返し行い、検診当日に向け準備しています。



JICA 東京国際センター職員の視察



SCGO 事務局でカナル先生より説明

5月26日、当プロジェクトを担当しています JICA 東京国際センターより岩瀬倫代さんと大橋亜矢子さんが当プロジェクトサイトに視察に来られました。

初めに、カンボジア産婦人科学会のカナル学会長からパワーポイントを用いて、どうして子宮頸がんプロジェクトがカンボジアにおいて必要か、またプロジェクトの進捗状況等について説明が行われました。途中、これまでプロジェクトで作成した健康教育用のパンフレットやフリップチャート、工場での活動風景の写真を共有し、最後に、質疑応答が行われました。



クメールソビエト病院の手術室



国立母子保健センターの検査室にて

その後、国立母子保健センターで HPV 検査のための検査技師研修が行われていましたので、研修の様子を見て頂きました。その後、クメールソビエト病院に移動し、供与機材の下平を用いて治療している診察の様子を視察したり、クメールソビエト病院で中心となって診察を行っている産婦人科医に質疑応答が行われました。

～ミニミニコラム～

当プロジェクトで工場での健康教育を担当していました下地美歩子さんが、日本に帰国することになりました。

これまで、工場関係者との連絡および調整、カンボジア人助産師や JSOG/SCGO の医師達と健康教育の実施内容を話し合い、また、工場の研修スタッフからの声を拾い上げ、より現場で活用できるようにご尽力頂きました。

これからは、SCGO 事務局スタッフのバティが工場との連絡役を担い、カンボジア人医師、助産師が工場での健康教育活動を展開していく予定です。

下地さん、お疲れ様でした！！



プロジェクトを取り巻く動き

- 4/30-5/7 : 藤田則子医師カンボジア派遣
- 5/2 : SCGO 理事会
- 5/4 : 検診準備会議
- 5/4-5/29 : 石岡未和助産師カンボジア派遣
- 5/6 : 日系電子部品メーカー健康教育
- 5/21-23 : 藤田則子医師カンボジア派遣
- 5/22-26 : カンボジア人検査技師2名がキアゲンの HPV 検査トレーニングを受ける
- 5/23 : 検診で使用するバーコードの研修
- 5/26 : JICA 東京国際センターより岩瀬倫代さん、大橋亜矢子さんが当プロジェクト視察